

(個別研究)

子どもの生活と意識に関する研究

児童家庭福祉研究部 須永 進
新宿区立早稲田小学校 内野 宏史
大田区立池雪小学校 相磯幸之朗

要約

急速に変容を見せている子どもの生活環境に関して、今新たな社会的支援が求められている。なかでも、放課後の生活では学校とのつながりを保ちながら、さまざまな状況が子どもの周辺で起きている。と同時に、子ども自身の意識や行動にもいくつか特徴が見られるようになった。こうした現況を今回東京都内の子ども641人を対象に、質問票による調査を実施し、可能な限りその実態を明らかにしようと試みた。その結果、学校での生活が家庭や子どもの生活空間および彼らの意識や行動に少なからぬ影響を及ぼしていることが明らかになった。また、子どもの心身の健康に関しては、生活リズムや学習塾さらには学校生活そのものが深くかかわっているといった結果が改めて確認される結果となった。こうした状況を踏まえ、放課後の子どもに対して保育所や児童館など既存の社会的資源の活用や、地域の新たなマンパワーによる社会的支援のシステム化が早急な課題になっていると言える。

見出し語：子どもの生活環境、社会的支援、子どもの意識や行動

A Study on Child's Life and Consciousness

Susumu SUNAGA
Hiroshi UCHINO
Kojiro AIISO

Abstract

In child's living environment with rapid changing, it is required to social support now. As to child's after school life, especially, a various situations have occurred surrounding them keeping connected with school, at the same time we are able to find some characteristic, child's consciousness and behavior. We tried to clear the actual situation of child's life and consciousness by means of filling out a questionnaire for 641 elementary school children in Tokyo. As a result, it has cleared that school life itself has affected to domestic life child's living space and their consciousness and behavior. Concerning child's health both in mind and body, we have realized again, their living rhythm, the cross school and school life are greatly related to them. We can insist that the social support system should be recreated by the using of the social resources, for instance, a day-care center, children's hall and that the new man-power in that area.

Key Words: child's living environment, social support, child's consciousness and behavior

I. はじめに

近年子どもを取り巻く生活環境は大きく変容し、それに伴い、新たな問題が生じてきている。たとえば、学校における「いじめ」や不登校は極めて深刻な状況に至っている。また、放課後の生活では遊びや学習の形態に変化が見られる一方、家庭や家族の役割や機能も変わりつつあるため、そうした生活環境全般の変化によって子どもの成長と発達に少なからぬ影響を及ぼしているケースも一部に見られるようになった。なかでも、女性の就労増加により「昼間保護者のいない」家庭が増え、放課後の子どもの生活に対する対策が急がれている。そのため厚生省は「放課後児童対策事業実施要綱」（平成3年）を定め、具体的な実施策に取り組んでいる。今後さらに社会変動に伴う子どもの生活環境の変容に対応するためにも、今日における子どもの生活と意識に関する調査が不可欠となっている。

II. 研究目的

子どもの生活に関する調査研究は、これまでも多数行われているが⁽¹⁾、今日子どもの生活環境の変化におけるサイクルは極めて速く、予測できない状況が見られる。そのため単年の調査研究にせよ、常に子どもに関する新たな調査データが求められている。本研究では、今日「見えにくくある」あるいは変容過程にあるといわれている子どもの意識や行動を、学校や放課後での生活に焦点を絞り、その実態を可能な限り調査し、生活主体あるいは発達主体としての彼らの実像を明らかにするとともに、そのプロセスによって得られた調査結果により、今後の社会的支援のあり方を構築していくための手がかりとすることを目的としている。

III. 研究方法と調査対象

東京都内にある、公立小学校の4年生を対象に、質問票による調査を平成7年10月に実施し、随時回収した後、単純集計を行い必要に応じてクロス集計を試みるなど、総合的な分析と考察を行った。今回調査対象を小学校4年生に絞った理由は質問票に対してほぼ適切な回答ができる最小年齢であることや放課後の生活において学習塾に通塾していない者が5・6年生に比べ多いことや、これまで学童クラブに通っていた子どもたちが行かなくなり新たな生活空間を求める時期であるなど、放課後の過ごし方に多様性と変化が見られるため、その実態の把握には意味があると思われたからである。なお今回の質問票の回収率はほぼ100%に近く、調査対象の子ども数は男女併せて641人であった。

IV. 調査結果及び考察

今回調査対象となった小学校4年生の年齢構成を見ると、9歳と10歳の比率はほぼ4:6で、調査時期の11月時点で10歳児がやや多くなっている。また、「不明」2人は、記入洩れによるもので、これは他の質問においても共通であった。

性別では男子331人(51.6%)、女子306人(47.7%)で、若干男子の方が多い。

世帯員数は4~5人が全体の約7割弱(68.9%)を占め、次いで6人(12.8%)、3人(9.2%)の順になっている。また7人以上は7.1%、45人であった。

一方、きょうだい数では2人が329人(51.3%)と半数で3人は200人(31.1%)になっている。またきょうだいのいない「ひとりっ子」は10人に一人(10.5%)の割合であった。

この他、きょうだいの出生順位を見ると今回の調査では長子の割合が298人(46.5%)で、2番目以降の子どもは332人(51.7%)になっている。これは東京都内の同年齢の子どもに対する調査⁽²⁾と比べて、長子の占める割合が10%以上高いといった結果となっている。

次に起床時間では、7時台が409人(63.8%)と高く、次いで6時台が216人(33.7%)で、5時台の11人を加えるとほぼ全員が7時前後には起床し8時台はわずか5人(0.8%)と少なくなっている。

一方、就寝時間は9時から10時台が540人(84.2%)と多く、8時台を入れるとほぼ9割近い(88.1%)子どもがこの時間帯に就寝している。この他11時台では66人(10.3%)、12時以降は10人(1.6%)となっている。

次に、学校生活についてはまず、学校が「楽しい」と回答している子どもは3人にひとりで、「とても楽しい」を含めると、6割(60.8%)を占めている。その反対に、「楽しくない」「あまり楽しくない」を合わせると、全体で1割弱程度になっている。また、「普通」と回答した3割の子どもを加えて見ると、今回調査対象となった子どもの多くは、学校が「楽しい」あるいは「普通」と考えていることがこの回答結果からわかる。しかしながら、学校生活が「楽しくない」と回答した子どもたち(62人)に目を向けると、「何となく楽しくない」「疲れる」「遊ぶ時間が少ない」などが上位になっている。また「友達とうまくいかない」「いじめられている」さらには「先生が好きでない」といった友達や先生との関係によるものや「勉強する気がしない」「授業

がわからない」「テストが多い」など学習内容を理由にあげている子どもが一部に見られる。

さらに、「学校が楽しい」(A群)と「楽しくない」(B群)に分け、家庭や人間関係との関連で比べてみると、明らかに差が見られる。例えば家庭での居心地について(表1)のような結果になっている。

(表1) 学校と家庭との関連性

	(家庭が) 楽しい	楽しくない
A群	234 (60.0)	33 (8.4)
B群	31 (50.0)	15 (24.2)

(p < .005)

すなわち、学校生活が楽しくないB群の子どもたちは家庭においても同様の傾向を示していることがわかる。また、家族とのコミュニケーションではA群の子どもたちがB群の子どもたちより家族とよく話をしているといった結果がでている。対人関係に関しては「誰かを困らせたりいじめたい」割合がB群(38.7%)に多く、A群(19.5%)の2倍近くになっている。ただし、こうした傾向を単純に結論とするには速断的な面もあり、今後のより詳細な調査研究の成果を待たざるを得ないが、今回のこの調査に限定するならば、学校生活が子どもの生活空間や対人関係の意識や行動に少なからず影響を及ぼす要因のひとつになっていると考えられる。

次に学校の週5日制による土曜日休日における子どもの過ごし方に関しては、複数回答ながら、50%を越える項目として「友達と外で遊ぶ」「ひとりでテレビゲームで遊ぶ」「家族と一緒に公園や買い物」となっており、それぞれの休日を楽しんでいる傾向が見られる反面、「家で勉強している」「学習塾で勉強している」子どもも少なくない。また、回答のうち「その他」には、地域にある子ども会やサークルへの参加や習い事、さらには特に「決まっていない」「その日によって違う」などが多くを占めている。また、学校から帰ってから遊ぶかどうかについては、「いつも」「ときどき」遊ぶ子どもが、96.7%と高く、ごく一部の子どもを除くとほとんどの子どもは帰宅後何らかの遊びをしていることがわかる。

一方、近年働く親が増え、いわゆる留守家庭の子どもも少なくない。質問の12ではこの点について問う項目になっている。その結果家族の誰かが家に「いる」が7割強で、残り2割強の子どもで「いない」という結果であった。家に「いる」人の多くは「母親」で、以下きょうだい、祖父母、父親と続いている。また、「その他」では、親戚の人、「店の人」(従業員)という回答が見られた。また「帰宅時家に誰かがいる」子ども(A

群)と、「いない」子ども(B群)に分けて、家庭での居心地や家族との会話についてクロス集計をし、カイ乗検定を行った。それによると、例えば「家にいるとき、楽しいかどうか」では次のような結果になっている。

(表2) 家庭での居心地

	楽しい	楽しくない
いる (A群)	264 (54.7)	45 (9.3)
いない (B群)	71 (44.6)	24 (15.0)

(p < 0.01)

これによると、家に誰かがいる子どもは、いない子どもに比べて、「家庭が楽しい」と回答している割合が高くなっている。また、「一日のできごとを家族と話す」割合も、A群の子どもの方がパーセントで6ポイント多く、有意差が認められた。こうした結果を踏まえると、留守家庭の子ども、特にこの年齢の子どもを帰宅以後に受け入れる体制を整える必要性が出てくる。例えば児童館での受け入れをこれまで小学校低学年に重点が置かれていたところでは、高学年層を積極的に受け入れるようにするか、保育所などでも現在特別保育事業の一環として試みられている退所児(卒園児)の保育の枠を広げ、乳幼児保育の妨げにならない程度に小学生高学年を受け入れるシステムなどが考えられる。さらに、帰宅後家庭でひとりでいたい子どもには、緊急時や体調の悪いときに相談や連絡のできる人あるいは場所が身近にあるようにし、ひとりでいることによって生じやすい不安や孤立感を和らげ、心を解放できる生活空間を保障する地域的な支援策が急務であると思われる。

次に、手伝いについての項目では半数の子どもが「ときどき」しており、「いつも」子どもを入れると60%を越えている。しかし、他方家での手伝いを「しない」子どもも3割強見られる。

放課後帰宅した子どもがすることでは、その時々によって違うという回答が多くなっている。また「宿題をする」以外の項目では「テレビゲームやファミコン」の他、テレビやビデオを観たり、漫画を読むなど、どちらかというと、全身を動かすことの少ない、静的な行動をとる子どもが多いといった結果が表れている。また、帰宅後子ども自身が「ゆっくりできる」と感じている空間に対しては、自分の家や部屋の中という回答が全体の7割強(72.8%)を占めている。次いで友達の家、学校の校庭、公園が、1ケタの6から3%台で続いている。この他、コンビニエンス・ストアやゲームセンターをあげている子どもが15人(2.3%)程度いる他、児童館(2.2%)、学習塾(1.9%)の順となっている。これを性別で見ると、男子の方が女子より割合の高

い場所としては、自分の部屋を除くと公園、学校の校庭、友達の家、空き地や遊び場さらにはコンビニやゲームセンターなど自分の家以外の屋外空間派が多くなっている。それとは逆に、女子の場合には「家の中」が男子より10%ほど高く約半数(49.3%)近くに達している他、学習塾や児童館(児童センター)などにおいても若干男子のそれを上回るなど、どちらかという室内空間派が多くなっている。この両者と各空間には有意差があり、関連性が認められた。

次に、普段遊ぶ場所では「家の中」が4人にひとりの割合になっており、以下友達の家、家の周辺、公園、学校の校庭、児童館、空き地の順になっている。

また、遊ぶときには何人くらいの友達と遊ぶかについては、2~3人という回答が全体で約6割弱(58.7%)で、4人までを含めると8割強(84%)を占めることになる。このように何人かの友達と遊ぶ子ども以外に「ひとり」で遊ぶ子どもは7.5%となっている。

遊ぶときの相手では複数回答ながら、学校の友達が88.5%と高く、次いできょうだい、近所の子、親戚の子と続いている。この他では大人の人という回答が一部に見られた。

近年子どもの生活を考えるときに、避けて通れないのが学習塾の存在である。年々通塾対象の子どもの年齢が下がる中で、今回の調査では小学校4年生で通塾している子ども(47.4%)は、通塾していない子ども(41.3%)に比べ若干多いといった結果になっている。また、週にどれくらいの割合で通塾しているかでは週に2日が多く、以下、3、1、4、5、6回以上の順である。また、通塾している子どもの身体的な疲労に関して通塾している子どもの群(A群)と、していない子どもの群(B群)を比べると「すぐ疲れる」と感じる割合はB群が4ポイント多く、46%になっている。さらに、「夜眠れないことがある」「おなか痛いことがある」「何もしたくないことがある」などでも、通塾している子どもの方が少なくなっている。反対に通塾している子ども(A群)に多い項目では「頭が痛いことがある」「朝何も食べたくないことがある」「大声を出したりものをこわしたい」などとなっている。ただし、どの項目においても有意な差は見られなかった。さらに、通塾の回数で見ると、A群(週に1~2回)とB群(3回以上)では、B群に多かったのが、「頭の痛いことがある」「おなか痛いことがある」「何もしたくないことがある」「朝何も食べたくないことがある」「大声を出したりものをこわしたい」といった項目になっている。ただし「すぐ疲れる」や「夜眠れないことがある」はA群の方

が多いといった結果が見られた。ただし、この項目において有意差はなかった。

学習塾に加えて、今日の子どもの生活に関係のあることのひとつに「習い事」がある。この習い事をしている子どもとしていない子どもの比率は、ほぼ8対2で、学習塾に通っている子どもよりその割合が高くなっているのが特徴として見られた。種類では、1~2種類が6割で、3種類以上の習い事をしている子どもは1割強程度になっている。またどのような習い事をしているかでは複数回答の形式をとっているが、ピアノが一番多く、30%を占めている。次いで水泳が23%、習字が21%と続いている。以下、英語、サッカー、野球、柔道・剣道、そろばん、バレーの順となっている。この他では、「その他」が123人(19.2%)で、その多くは地域にある、伝統的な芸能や子ども会活動などをあげている子どもであった。

次に、家にいるとき楽しいかどうかでは、「とても楽しい」「楽しい」を合わせると、335人で過半数になっている。「普通」と答えている子どもは234人・36.5%で「楽しくない」は69人で10.8%といった回答であった。

家族との会話については「よく」「ときどき」話す子どもが全体で8割以上を占めており、コミュニケーションの不足が懸念される今日において今回の調査では危惧されるほどの結果ではなかった。ただし、中には「全然話さない」子どもと「あまり話さない」子どもを合わせると、111人・17%程度見られたことは、全く問題がないというわけではなく、看過できない点といえる。

家族とのかかわりのひとつに、夕食を誰と食べているかがある。その点に関する質問では回答した子どもの半数以上(52.6%)が家族全員と答えている。また、父親あるいは母親のどちらかと食べている子どもは約4割弱(39.2%)で、きょうだいだけ(子どもだけ)で食べている子どもは37人・5.8%いた。この他、ひとりで食べている子どもは、今回13人(2%)見られた。

次に、ひとりでいるとき子ども自身が何か心配になったり、寂しくなったりすることがあるかどうかについては、「ある」「ときどきある」と回答した子どもは298人(46.5%)で、おおよそ2人にひとりが不安感や孤立感を持っていることが明らかになった。これを帰宅時に誰か家にいる子どもとそうでない子どもと比べると、「誰かいる」子どもの方がひとりになったとき心配や寂しさを感じる割合が「いない」子どもより8ポイント高く、有意差があった。(p<.005)

次の質問22では、子どもの自律性や社会性の発達に関して11項目の回答を求めている。

そのうち、8割以上の子どもが「できる」と回答している項目は、次の3つである。

- | | |
|---------------|-------|
| ① ひとりで留守番をする | 84.7% |
| ② 宿題や学校の準備 | 83.9 |
| ③ 知っている人にあいさつ | 82.1 |

また、反対にほぼ2人にひとりを表す50%台の項目としては

- | | |
|-----------------|-------|
| ① 思っていることを人に伝える | 50.7% |
| ② 時間で遊びやテレビをやめる | 50.9 |
| ③ 約束を守る | 56.6 |
| ④ ひとりで起きる | 59.8 |
| ⑤ ゴミを出す | 59.8 |

となっている。

この他の項目は、60%台で全体では自律性にやや欠ける傾向が見られるが、その反面で知っている人へのあいさつや学校の規律を守ろうとする気持ちは高いことがこの調査結果からわかる。ただし、実際にできるかどうかは別の問題であり、当然意識と行動との間には多少のズレのあることを把握する必要がある。

子どもの心身の健康度についての質問では、「夜眠れないことがある」と「ずっと寝ていたい」子どもが60%を越えているが、特に後者は7割近い(69.9%)数に達している。これを就寝時間で見ると、9時までに寝る子ども(A群)と10時以降の子ども(B群)ではB群の子どもの方がA群より10ポイント「寝たい」とする気持ちが高い結果が出ている。(p<.001)

この2つの項目に限って言えることは、今日この年齢の子どもたちの多くは就寝時間の遅延化に伴い、睡眠時間の不足によって疲れ気味であると同時に、それを回復するための睡眠も緊張状態が続いているため十分にたれない状況にあるものと思われる。

この他の項目においては、「おなかが痛いことがある」「何もしたくないことがある」「おもしろくないことがある」「友達にいいたいことがいえぬ」の各項目がそれぞれ50%を越えている。

次に子どもが大人になりたいかどうかでは、「思わない」という回答が3人にひとりの割合で見られ、「思う」子どもは2割強(23.4%)程度になっている。これは子どもの目を通して見た大人の世界に期待がもてないのかあるいは「成熟拒否」によるものなのか、その理由を見ると、①(大人になると)「早く死ぬから」が一番多く、以下「子どものままでいたいから」、「仕事があるから」、「遊べなくなるから」、「毎日忙しいそう

だから」となっている。反対に早く大人になりたい理由としては、①好きなことができる、②仕事ができるから③勉強をしないでいいから、④遊べるから、などがあげられている。これを性別で見ると、「早く大人になりたい」割合は男女ともに23%台でほぼ同じになっているが、「思わない」とする回答では女子の方が5ポイント高く、「わからない」割合も女子が男子に比べて6ポイント上回っている。また全体では、早く大人になりたいか否かでの回答において「わからない」とする子どもがおおよそ2人にひとりにあたる45.2%見られたことは、今日の子どもの意識面あるいは成長面におけるひとつの特徴としてとらえられる。

この他、今日の子どもの基本的な生活観や人間関係に対する意識では、いくつかの質問項目による回答を求めている。

それによると、便宜上次のような割合(%)ごとに①(A群:70~80%台)、②(B群:60%台)、③(C群:50%台)の3つに分けると、以下のような項目がそれらにあてはまることになった。

- | | |
|------------------|---------|
| A群「友達と仲よくする」 | (87.1%) |
| 「決められたことは守る」 | (77.1) |
| B群「親のいうことを守る」 | (66.9) |
| 「老人や小さい子のことを考える」 | (66.3) |
| 「勉強ができるように頑張る」 | (64.3) |
| 「自分の仕事を最後までやる」 | (61.6) |
| C群「弱い子の味方になる」 | (58.7) |
| 「楽しく愉快であればよい」 | (56.3) |

この結果によると、対人や自己規律に対する意識は高く、特に友達との関係では予想以上に気を遣っている様子が見られる。しかしその反面「楽しく愉快であればよい」といった享乐的あるいは刹那的とも思える考えを持つ子どもも過半数を越える程度見られた。

質問28と29では、「いじめ」について子どもがどういった考えを持っているのか、回答を求めている。

まず、「いじめっ子」や「いじめられっ子」について「いじめる子」が悪いと考えている子どもが全体の約4割弱(37.4%)いる。また、「どちらも悪い」という回答が31.5%で、「わからない」は16.1%になっている。その他の回答では「いじめられる子も悪い」といった見方をしている子どもも15%弱見られた。

なおいじめについて「わからない」という回答には、「いじめを見たことがない」という理由を述べている子どもがおり、身近な問題として十分とらえられていない子どもも一部に見られた。

また、クラスの人がいじめられていたらどうするか、

いう質問に対しては、「やめるように言った」が44.0%を占め、次いで「先生に言った」子どもが20.6%になっている。それとは逆に、「何もしなかった」子どもや中には「一緒にいじめた」子どもは24.3%おり、4人にひとりの割合になっている。その他、「親に言った」子どもはわずか4.4%に過ぎず、一部を除くとほとんどの子どもはいじめについて親には話していないと思われる。

また、このいじめに関して、学校生活が楽しくない子どもを見ると、いじめへのかかわりが全般に低い、あるいは消極的な傾向が表れており、いじめを「やめるようにいう」子どもは「学校生活が楽しい」子どもの半分程度に止まっており、「何もしない」という子どもでは楽しくない子どもの方がほぼ2倍も多いといった結果が今回明らかになった。そのため、いじめを防ぐ初期段階として、どの子どもにも充実した学校生活を送れるような教育環境を準備し、クラスや学校全体に「いじめ」を許容しない雰囲気をつくるが必要になってくる。そのため、教師の果たすべき役割は当然大きく、改めてそうした認識に基づいた適切な指導のあり方が求められてくる。

最後に今日では大人と同じように忙しい生活を送っているといわれている子どもに、「自由な時間に何かしたいこと」があるかどうかを尋ねて見ると、約70%の子どもが「ある」と回答している。そのうち31.4%にあたる201人が「好きなことがしたい」としている。次いで「遊びたい」が22.2%で、両方合わせると2人にひとりの割合になっている。以下、寝ていたい、漫画が読みたい、がそれぞれ1ケタ台のパーセントで続いている。中には「もっと勉強がしたい」や「働きたい」と回答している子どもや、「大暴れしたい」「大声を出したい」という子どもが数名見られた。また「その他」10人の中には、「ボウーとしていたい」とか「何をしたいのかわからない」といった回答も一部見られた。

V. おわりに

以上のように、今日子ども、とりわけここで取り上げた小学校4年生の意識や行動では、学校やその後の家庭・地域生活において、それぞれが相互に影響し合いながら、形成されていることが確認された。例えば子どもが学校の生活面に充実感を持ってないと、行動面にそうした影響が一部に見られる。また、生活リズムとしての就寝時間では早く寝る子どもに心身の健全な成長が認められるだけでなく、学校生活への影響も少なくないことが改めて明らかになった。

また放課後の生活では、子どもが帰宅した際に家族の者がいる場合は、家族とのつながりや子どもの居心地(生活空間)が安定しており、そうでない子どもとの間に有意な差が見られた。しかしながら、今日では就労女性の増加が予想されることから、放課後の子どもの生活に対する支援のあり方を早急に具体化する作業が強く求められている。特にここで取り上げた小学校4年生以上の子どもに対する安定した家庭的な空間の確保や、家庭にひとりでないならばならぬ子どもへの支援をどう進めていくことが望ましいのか、取り組むべき課題が多いと思われる。しかしながら現状を踏まえてあえて言うならば、既存の保育所や児童館⁽³⁾などの充実によって児童福祉施設のさらなる活用を進めていくことや、家庭にひとりである子どもに対し、病気やその他緊急時に気軽に連絡や相談ができる地域による支援システムの確立化が今後検討されるべきであろう。

いずれにせよ、学校を含めて子どもの生活全般を豊かなものにしていくことは、子どもの成長と発達にとって極めて重要であることから、子どもへの社会的支援のあり方を早急にシステム化する時期にきているものと思われる。

なお、本研究の調査において、東京都区部では大田区立池雪小学校をはじめ、江戸川区立小岩小学校、新宿区立早稲田小学校、江東区立辰巳小学校、北区立桐ヶ丘北小学校と、また市部では八王子市立第九小学校、武蔵野市立第五小学校、府中市立第八小学校、清瀬市立第四小学校の各校および担当していただいた先生方と子どもたちの協力によって実施することができた。改めて深謝するとともに、健康に関する事項では東京大学大学院の衛藤隆教授のご教示を、また質問票の集計にあたって母子福祉研究部の斉藤幸子主任研究員の助力によるものが大きかったことを最後に記し、合わせて謝意を表します。
注)

- 1) 例えば、本研究所のプロジェクト研究「現代児童の生活実態に関する研究」もそのひとつで、1989年度より3年間継続された。(『日本総合愛育研究所紀要』第25集～27集を参照)
- 2) 東京都「平成5年度社会福祉基礎調査報告書 1993年
- 3) 児童館に関する現況調査としては、本研究所のプロジェクト研究「地域における子どもの健全育成に関する研究」がある。(1991年)ここでは、今日の児童館の活動が必ずしも子どもたちの多様なニーズに応えていない現状が一部明らかになっており、より一層の改革が求められている。

このアンケートは、みなさんが学校や家での生活の中で考えていることや思っていることを知るためのものです。1番から順番にこたえてください。

1. あなたの年齢は 9・10才 性別 男・女
きょうだいは あなたは
2. 家族の人数は _____人、あなたをいれて _____人で、 _____番目
3. あなたはいつも朝、何時頃に起きますか。 _____時 _____分頃
4. あなたはいつも夜、何時頃に寝ますか。 _____時 _____分頃
5. 学校生活は楽しいですか。
1. とても楽しい 2. 楽しい 3. ふつう 4. あまり楽しくない 5. 楽しくない
(上の5番で1, 2, 3番を選んだ人は下の7番からこたえて下さい)
6. 上の5番で、4番と5番の「楽しくない」を選んだ人に関きます。それはなぜですか。あてはまるものを下から3つ選んで下さい。
1. 授業がわからない 2. 先生が好きでない
3. 友達とうまくいかない 4. 勉強する気が出ない 5. 規則がおおい
6. テストがおおい 7. 遊ぶ時間がすくない 8. つかれる
9. 何となく楽しくない 10. いじめる子がいる
11. その他 ()
7. 土曜日が休みのときは何をしていますか。(3つまで選ぶ)
1. ひとりでテレビを見たりゲームをしたり好きな遊びをしている
2. 家で勉強している
3. 学習塾に行って勉強している
4. 何もしていない
5. 家族といっしょに公園や買い物に出かけたりすることが多い
6. 友達といっしょにマンガを読んだりテレビゲーム・ファミコンをしたりしている
7. 友達と外で遊ぶ
8. その他 ()
- 次の8番から21番まではあなたの放課後の生活について聞きます。
8. あなたは学校から帰ってきてから遊びますか。
1. いつも遊ぶ 2. ときどき遊ぶ 3. ぜんぜん遊ばない

9. あなたが学校から帰ってきたとき、だれか家にいますか。
1. いる (それはだれですか) _____ 2. いない
10. 学校から帰ってから、あなたは家の手伝いをしますか。
1. いつもしている 2. ときどきする 3. あまりしない 4. しない
11. 学校から帰ってきたとき、することは何ですか。(2つまで選ぶ)
1. テレビゲーム・ファミコンをする 2. ビデオをみる 3. テレビをみる
4. マンガを読む 5. 宿題をする 6. そのときによってちがう
12. あなたにとって、いちばん楽しく、ゆっくりできる場所はどこですか。
1. 自分の部屋 2. 家の中 3. 公園 4. 学習塾 5. 学校の校庭
6. 友達の家 7. 公園以外の空き地や遊び場 8. 児童館(児童センター)
9. コンビニやゲームセンター 10. その他 ()
13. いつも学校から帰ってから遊ぶ場所はどこですか。
1. 家のまわり 2. 公園 3. 家の中 4. 空き地 5. 校庭
6. 児童館 7. 友達の家 8. その他 ()
14. 学校から帰ってから遊ぶとき、何人くらいの友達と遊びますか。
1. ひとりで 2. 2~3人で 3. 3~4人で 4. 5人以上で
15. 学校から帰ってから遊ぶとき、だれと遊びますか。(2つまで選ぶ)
1. 学校の友達 2. 近所の子 3. きょうだい
4. 親せきの子 5. 大人の人 6. その他 ()
16. あなたは学習塾に通っていますか。
1. 通っている(週 _____回) 2. 通っていない 3. 前は通っていた。
17. 水泳やピアノなど、何かならいごとをしていますか。
1. している _____ (全部で _____こ)
2. していない 3. 前はしていた
18. 家にいるとき、楽しいですか。
1. とても楽しい 2. 楽しい 3. ふつう
4. あまり楽しくない 5. ぜんぜん楽しくない

19. 一日のできごとを家族の人と話すことがありますか。¹⁹

1. よく話す 2. ときどき話す 3. あまり話さない 4. ぜんぜん話さない

20. 家で夕食を食べるとき、だれと食べますか。²⁰

1. ひとりで 2. きょうだいと(子どもだけで)
3. 母親か父親と(子どもと母親、または子どもと父親) 4. 家族全員で

21. ひとりでいるとき、何か心配になったり、さびしくなったりすることがありますか。²¹

1. ある 2. ときどきある 3. あまりない 4. ぜんぜんない

22. 次のことについて、できる人は○の印をつけてください。

① 起こされなくても朝ひとりで起きられる ()
② 遊びや勉強の計画をたてて、それを実行する ()
③ 約束を守る ()
④ 時間になったら、遊びやテレビを見るのをやめられる ()
⑤ 自分の思っていることを人に伝えられる ()
⑥ 食事の手伝いやあと片づけをする ()
⑦ ひとりで留守番をする ()
⑧ 近所の人や知っている人にあいさつをする ()
⑨ 自分で宿題や明日の学校の準備をする ()
⑩ 自分の部屋のあと片づけをする ()
⑪ ごみを出す ()

23. 次のことについて、あてはまる人は○印をつけてください。

① 夜眠れないことがある ()
② すぐに疲れることがある ()
③ 頭がいたいことがある ()
④ おなかがいたいことがある ()
⑤ 何もしたくないことがある ()
⑥ 朝起きたとき、何も食べたくないことがある ()
⑦ ひとりでいたいと思うことがある ()
⑧ 大きな声を出したり、ものをこわしたいと思うことがある ()
⑨ だれかをこまらせたり、いじめてみたくなることがある ()
⑩ ずっと寝ていたいと思うことがある ()
⑪ おもしろくないことがある ()
⑫ 友達にいいたいことがあってもいえないことがある ()

24. あなたは早く大人になりたいと思いますか。²⁴

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

25. 上の24で、早く大人になりたいと思っている人に聞きます。それはなぜですか。
()

26. 上の24で、大人にはなりたくないと思っている人に聞きます。それはなぜですか
()

27. ふだん、あなたが大切だと思っていることは何ですか。○印をつけてください。

1. 自分の仕事を最後までする ()
2. 親のいうことを守る ()
3. 勉強ができるようにがんばる ()
4. 友達となかよくできる ()
5. きめられたことはできるだけ守るようにする ()
6. ほかの人のことより自分のことを考えて行動するようにしている ()
7. いじめられている子や弱い子の味方になるようにする ()
8. 年をとった人や自分より小さい子のことを考えるようにしている ()
9. 学校でも家でも楽しくて、ゆかいであればいいと思っている ()
10. とくに何も考えていない ()
11. その他 ()

28. 「いじめっ子」や「いじめられっ子」について、あなたはどのように思っていますか。²⁸

1. いじめる子が悪いと思う。
2. いじめられる子にも悪いところがあると思う
3. いじめる子もいじめられる子もどっちも悪いと思う
4. わからない

29. クラスの人がいじめられていたとき、あなたはどうしましたか。²⁹

1. やめるようにいった 2. 先生にいった 3. 何もしなかった
4. 親にいった 5. いっしょにいじめた
6. その他 ()

30. 自由な時間があるとき何かしたいことがありますか。³⁰

1. ある 2. ない 3. わからない

31. 上の30番で、したいことが「ある」と答えた人に聞きます。それは何ですか。
()

※ 質問はこれで終わります。ありがとうございました。